

家庭教育の支援をどのように行うかを社会教育の立場から検討

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聴き下さりありがとうございます。私は栃木県の教育委員会から今年の7月に選任されて、栃木県社会教育委員になりました。そして、その第1回目の会合が先週の先週の6日の水曜日10時～11時45分まで栃木県宇都宮市の県庁の西側にある公館で開かれました。

内容はこの2年間に何を行うかと、家庭教育の支援をどのように行うかを社会教育の立場から検討して、教育長に答申を出します。社会教育委員は2年間に4回しかありません。最初の1回でテーマを決めて、最後の1回で答申をする。つまり実質2回しか会議をする機会がありません。私はこれでは足りないと思い、年3回、できれば毎月してはどうかと提案しましたが、現状のままという回答でした。再度、この提案はするつもりです。回数が少ない分レポート等を提出できるので一生懸命書き、私の責任を果たしたいと思いました。この会議で私はどのように社会教育の支援を行うかについて3つ意見を述べました。1つは社会教育の立場で家庭教育を見ると、1番の支援策は善悪の判断の基準を子供達に認識させることだと思います。つまり規範教育です。法律の範囲内で自分の行動は律しなさいなど、法教育を家族内で行う。2つ目は少子高齢化の中で大事なことは子供達がスクスクと育つことです。結婚には様々な形態があります。人口問題を考えると結婚の形態は考えざるをえません。ヨーロッパでは嫡外子が4割程あり、これを容認しています。もっともっと若い方に産んでもらい社会の人として育てていくことが大事だと言われています。それには栃木県でも嫡外子を容認していく社会をつくって欲しいと述べました。色々な形で生まれたお子さんを栃木県の子供、日本の子供として立派に育てることも大事だと思います。3つ目は、栃木県は高校生の人工妊娠中絶が人工比で全国一です。高校生のいるご父兄の一番の心配は自分の子供が妊娠していないか、またはそのパートナーになっていないかだと思います。妊娠は非常に身体的負担が大きくあとあとまで残ることが不安です。20歳以下の子供達が人工妊娠中絶をしないような栃木県づくりを県をあげてすべきだと提案しました。これが社会教育委員会のテーマになるかは分かりませんが、私の考えを述べました。皆さんも社会教育の立場から家庭教育をどのように支援したらよいか考えて、ご意見を栃木県教育委員会や私に伝えて下されば県へ答申したいと思います。